

イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 121

## 主イエス・キリストとの 深い交わり

原田 謙



旧約聖書の雅歌は、90年代ヤムニヤ会議における旧約正典編纂会議で大問題になりました。その論点は、雅歌は単なる一恋愛歌に過ぎず、しかも当時30才以下の人は読むことを禁じられていた書物です。しかしその会議の折ラビ・アキバ等の強力な意見が受け入れられ、旧約39巻の正典に入れられたと言う経緯がありました。若し旧約正典に入れられていなければ、それは若き羊飼とシュラムの女(6章1節)との単なる一恋愛歌に終わっていた筈です。

だがしかし旧約正典に入れられることにより、花婿なる主イエス・キリストと花嫁なる教会あるいはキリスト者との関係として、今日私たちはこの雅歌を読んでいるのです。そしてこの雅歌は、新郎新婦の会話の遣り取りと云う形を取っていますが、その中から始めの部分を少し見ましょう。

まず新婦から新郎への言葉を聞きましょう。「どうか、あなたの口の口づけをもって、わたしに口づけしてください。あなたの愛はぶどう酒にまさる」(1章2節)と云っています。ここでぶどう酒に優って、口づけを求めています。ぶどう酒とは、経済的繁栄とか、健康が支えられるとか、色々な災いから守られるとかの見える形の祝福です。しかしそれらの祝福にまして「口づけ」を求めているのです。すなわち花婿なるキリストとの深い交わりを求めているのです。

勿論、私たちも見える形の祝福を祈り求めることは決して悪いことではありませんが、しかし10人のらい病人が癒されることを求めましたが、癒しの祝福を受けたら9人まではイエスから離れてしまいました。何にも優って花婿なるキリストとの「口づけ」、深い交わりを優先させたいものです。罪の女と批判された女ですが、高価な香油をイエスの足に塗り、口づけしてやみませんでした。そしてこの女をイエスは激賞なさったのです。私たちも何にも優って、イエス・キリストとの深い交わりに入れていただきましょう。

次に新郎から新婦への言葉を聞きましょう。「わが愛する者よ、わが麗しき者よ、立って、出てきなさい。岩の裂け目、がけの隠れ場におるわがはとよ、あなたの顔を見せなさい。あなたの声を聞かせなさい。あなたの声は愛らしく、あなたの顔は美しい」(2章13~14節)と云っています。アダムとエバが罪を犯した時、彼らは何をしたのでしょうか。「主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した」のです。その時主なる神は、「あなたはどこにいるのか」と呼びかけられたのです(創世記3章8~9節)。

そしてこのことは放蕩息子の父親のように、今も子の帰りを首を長くして待っているのです。会いたい一心で、主イエス・キリストは「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている」(黙示録3章20節)のです。私たちは礼拝に密室等に繋ぐ主のみ前に出て、顔を見せ、讚美と祈りをもって声をお聞かせしたいものです。その時雅歌の中心思想である、「わたしはわが愛する人のもの、わが愛する者はわたしのものです」(6章3節)と云う境地にまで入れられることが出来るのです。(パウロのガラテヤ2章20節参照)

(日本キリスト教団 更生教会牧師)

〈四十年の恵み〉

日本アシュラムの歩み(13)

海老澤宣道

◆第三回国際アシュラム参加者の感想文集

第三回国際アシュラムを日本に迎へ、連盟加盟の全地区の協力の下、78年10月に東山荘で守ったことは前号に述べたが、その後、当時の指導者の一人、米国ミネアポリスのW・E・バーグ博士が編集した参加者の感想文集が出てきたので、内容の一端を紹介することにしよう。

東山荘に集まったのは、英米、加、印、コスタリカ、瑞典、韓国など海外から四〇名、日本国内から二二〇名、この感想文集には海外参加者中の二〇名が寄稿している。

A. 初めて国際的アシュラムに参加、各国の兄弟と共に主に在る交わりを持ち、神の家族を体験した。

B. 日本の参加者が多かったことに驚く。日本は他宗教の勢力が大きく、世俗的政治の下、キリスト信仰に入る困難ありと聞いていた。

C. 祈りの細胞の一つで米国のアシュラムに就て質問され、全年齢層の他に、少年少女、青年、成人の同年別やまた夫婦親子ぐるみのアシュラムも守っていると答えたら、それはすばらしいと言われた。

D. 東京その他の都市を見て道路がきれいなこと、路上の犯罪が少ないこと、日本人の礼儀と勤勉に感心した。

E. 日本のホテルには至れり尽せりの備品がある。キモノ、スリッパ、茶道具、靴磨き、服ブラシ、懐中電灯、化粧品、歯ブラシ、ひげそり、枕各種、低いベッドと机、椅子、そして地震もあった。

F. 日本古風の庭園や神社仏閣の他、近代的製パン工場の見学もあり集会場が富士山麓の美しいキャンプ場であったが、三日間は曇ばかり。然し最後の充満の時が終わると、快晴になり、チャペルの窓から富士山の容姿が美事に照出され感動した。

G. その後、京都大阪を経て広島を訪問。雨の中を平和記念碑の前で祈禱会。歴代志下七章14節の御言を信じて、日米両国のために祈った。

H. 第三回が恵み深く守られたのは勿論主の御導きによるが、日本の海老沢、大石、谷本その他委員一同の歓待によることを覚えて感謝したい。

最後にバーグ博士は韓国、香港、ハワイでも一日アシュラムを守り、米国へ帰りついた記録をまとめ、日本アシュラムの歌(英訳)の第四節をもって結びの言としていえる。

◆第四回世界アシュラム発祥地インドのサトタルにて

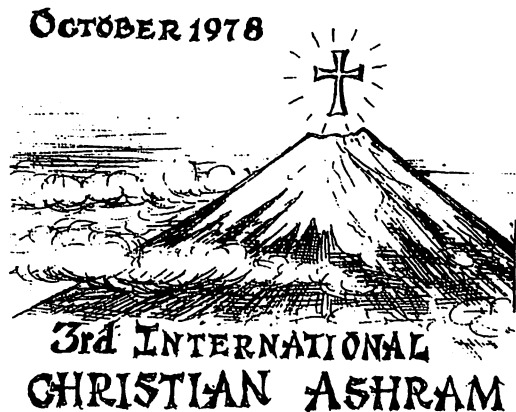
第四回は二年後の八〇年が、世界アシュラム創始の一九三〇年から五〇年目に当るので、発祥地サト・タルで開催することになった。インド側は彼らだけで六月一日から七日まで、ワダナー師、タイタス師、アイマド・シャー博士などの指導で第一部を守り、第二部として国際アシュラムの計画の下に十月九日から二日まで同所で米国カナダ組21名、印度組20名、コスタリカ2名、日本組は7名、計50名で50年祭を祝った。

サトタルとは「七湖」の意で周囲広大な敷地の丘や谷あり、昔紅茶の栽培地で後に宣教師たちが避暑に来ていたが、スタンレーが退修生活の好適地として、最後の地主エバンス夫人が帰英する時に譲渡して貰った美しいヒマラヤ山麓の道場である。50年前ここで博士はインド人牧師と英國の婦人宣教師との三人で、静聴の時を持ち初めたのである。

博士が主イエスと一人だけで退修生活をした思い出の館、丘上の八角型の聖堂、講堂兼食堂、25軒の宿泊小屋、スタンレーの分骨を納めた墓など、広い敷地内に点在している。

この時の指導はタイタス師、マシウズ夫妻、アイマド・シャー、バーグ師などで、私は11日(土)午後後に『日本アシュラムの歩み』につき報告講演をした。日本からの参加者は他に大石嗣郎、宇都宮充、志村卯三

郎、洲江淳一、井本富三郎、海老沢すま、全員七名大いに恵まれて帰国した。



アシュラム生活最良の友  
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価300円、〒90円、年2,340円(〒共)

3ヶ月分個人予約注文は5,400円(〒除く)

申込先 ☎256-0812 小田原市国府津3-11

振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム

電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来49年続行中

【感謝】◆各地のアシ

の報告を頂きありがとうございます。このため発行

東京都目黒区中央町1-21-10  
アパ・ルーム編集部

第37回関東地区アシュラム報告



第三七回関東アシュラムが、9月22日～24日、山崎製パン箱根山荘を会場に行われました。今回は、助言者に原田謙師（日本基督教団更生教会牧師、東京聖書学校教授）をお迎えし、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」（マタイ6章33節）の主題のもと、今年もたいへん祝された会を持

◆今回からマンガ「英一氏に感謝します。」

次回は二月発行の予定です。

執筆奉仕下さる山岸

つことができました。昨年よりも少し多い、38名の兄姉がご参加ください、また少し若返った会となりました。

原田先生は、二回持たれた「福音の時」に、神の国を「すでに」と「いまだ」という二つの面から説き明かしてください、どのような状況の中にあつたとしても、「こころも神のみ国なれば」という信仰に生きることでできる幸いと、また、試練の中にあつても、やがて終わりの時、み国の完成の時が来ることを信じ、「ヨブの忍耐を思え。その果てを見よ」との信仰に立って、忍耐と希望を持って歩むことの大切さをお語りくださいました。特に、先生のご両親が、戦時下における厳しい訓練の中で信仰に生きられたお証しは、私たちに深い慰めと励まし、また大きなチャレンジとなりました。

今年の関東アシュラムで特筆すべきことは、スタンレー・ジョーンズ師がインドでアシュラムを指導された様子が収められている「神の漁り人」というビデオの日本語吹き替え版が新宿西教会の兄姉のご努力によって完成し、ファミリーアワーのときに見ることができたことでした。吹き替えも新宿西教会の方々が担当され、それがまたとても上手なのでびっくりしました。スタンレー・ジョーンズ師がアシュラムをどのように

指導されたのが良く分かり、たいへん有益でした。

今年のアシュラムで、もう一つ感謝であったことは、三名の新しい委員を関東アシュラムにお迎えすることができたことでした。佐野勇松兄、永田直子姉、遠藤聰子姉の三名の方です。アシュラムの輪がこのようにして少しずつ広がって行くことは、感謝なことです。

ともかく、今年も私たちの思いを越えて、主が一人一人に豊かな恵みを与えてくださったアシュラムでした。（書記・島津吉成）

第38回関西地区アシュラム報告

- ・ 主題 「教会への奉仕と伝道」
- ・ 日時 99年9月22日～23日
- ・ 出席 三四名
- ・ 費用 10,000円
- ・ 会場 国際交流セミナーハウス

今回は、金徳成牧師を追悼する時間を取る為に労作の時間をそれに当てた。ご遺族からは「長男の金世栄様にご出席下さった。多くの先生方が思い出を述べたい気持ちを抑えて手短にしかし熱い思いを持って、追悼した。何よりも一人一人の心の中に強く焼きついた先生の人徳と神への従順が私達の歩む道しるべとなっているのに気づかされた。関係する在日大韓教会の兄弟姉妹も多く、共

に主にある証の生活を送りつつ、ファミリーの一人一人が来年の集会で共に覚えて歩み続ける約束をして、散会しました。

国際交流セミナーハウスは、大津市の琵琶湖に面した高台に在り、見晴らしがよく、朝のすがすがしい空気の中で祈る一時を持たれている出席者も居られました。清水潔牧師の開会の祈りで始まり、金元治牧師の開心の時、分団に別れた祈りの細胞(1)、平方美代子牧師の福音の時が持たれて、連鎖祈禱に入った。翌朝23日は、辻中昭一牧師の朝の祈りで始まり、静聴・分かち合いの時を小島十二牧師、祈りの細胞(2)の後、金徳成牧師追悼の時が持たれた。最後に充滿の時を杉田常夫牧師が担当され、霊に満ちた熱い思いに充たされたアシュラム集会を終了した。

出席者一人一人が『イエスは主なり』の信仰に生きるキリスト者であり、毎朝の早朝の祈り続けておられる方々も少なくなかった。影の奉仕者として杉岡ひとみ伝道師の働きも大きかった。若い働き人は希望をもたらし下さる。感謝に満ちた集会であった。（書記・小林 勝）

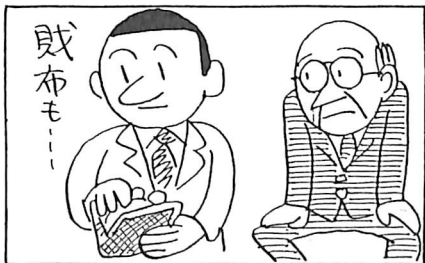
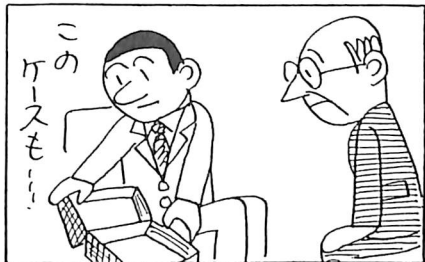
第4回富山地区アシュラム報告

- ・ 主題 「神の国を嗣ぐ」
- ・ 日時 99年9月27日～29日

東京011-4558  
理事長 大石 嗣郎  
編集人 有馬 歳弘  
定価 一部60円 千80円

# はれるやさん

① 谷牧子



・出席 一八名

今回のアシラム反省点は、静聴の時間が分でなかった。聖書に聴くことと、恵みの分かち合いで、細胞の交りは座長の祈りによって始め、各自得られたみことばを分かち合って共感出来るように導かれることです。

不断の祈りは、各自の黙想の30分から一時間を静まって聖霊に導かれる。その時に感じた事をノートに書くことは良いことです。祈りはかならず、答えられます。特に密室の祈りは、人間の心が集中してきますから、主の導きを聴くことが出来ます。これが神との交わりの時として体験されるのです。アシラムはこの祈りへの訓練と学びが特長です。

第4回富山アシラムに、初めて参加された方々を紹介します。北陸3県に渡って、福井の山田信子さんは西田光江姉の紹介でした。石川県の瀬戸崇行さんは、岩城輝雄兄のお勧めでした。富山では、上村富美子さんは、小泉道子姉のお誘いでした。又新庄教会の芝田孝正さんは自ら進んでの参加、そして石川ミネさんは、海老沢宣道師から紹介さ

れておりました、祈りの友、アシラム連盟誌を見て、電話で参加を申込みました。新しく5名の参加者が与えられたことは感謝でした。

日本アシラム連盟から大石嗣郎理事長のご奉仕によるプログラムによって、開心の時、福音の時、充滿の時、二泊三日のゆっくりした時間のうちに聖霊の働きを充分に受けることが出来たことです。

この恵みと喜びはアシラム参加者一人一人の心の内にやどり、信仰生活の日々を変えられて、祈りの力が増し加えられるでしょう。

仏教王国と言われる北陸の地に、イエス・キリストの教えが広まって人間社会が正しく、清く救われる生活が出来るよう。神の国を嗣ぐことを、目指す信者の道に歩むことこそ、信仰する者の救いであり、神が永遠の命への道にともなうてくださるこ

とがわかる、信仰となることが出来ますよう祈って報告とします。

(報告 若林節子)

## 第10回 国際クリスマスチャン・アシラム

二千年問題をよそに、来年はアシラム運動(退修会)にとりまして日本は創設四十五周年、インドは創立七十周年(S・ジョンズ博士サツタル・アシラム開始)を覚えて記念祝典がすでに計画されています。

後者について第十回国際クリスマスチャン・アシラム(11月18日〜21日)於・サツタルが、米国アシラム発行「トランスフォーメーション夏秋合併号」に発表された。アメリカ訪問団は14日間(11月14日〜27日)の旅程でニューデリー経由(インド大統領表敬訪問)アグラ、タジラマハル、ファテプール宮殿、コルビット公園(動物保護園)、ルクナーワ女子校、病院などが予定される。

日本訪問団は現地サツタル(11月18日〜21日)の諸集会を中心にして周辺の各所をアメリカ団とは別行動をする予定です。

日本のアシラム関係各位は奮って参加されることお勧めします。近日中「アシラム」誌上に記載します。

(理事長・大石嗣郎)